

令和3年度 第1回八雲町子ども・子育て会議 会議録（要旨）

- 開催日時 令和3年7月27日（火）18：30～19：20
- 開催場所 八雲町役場 第1・2会議室
- 出席委員 櫛桁 まどか、斎藤 やす子、尾関 光広、佐々木 達司、
松本 貴子、渡辺 兵衛、植杉 僚、羽二生 紀行、伊藤 整志、
西田 浩人、小林 元彦、泉 祐子、佐藤 玲子、小栗 由美子
- 欠席委員 亀田谷 卓、小熊 裕樹、島 裕介
- 事務局 住民生活課長、住民サービス課長、落部支所長、保健福祉課主幹、
住民生活課長補佐、住民サービス課長補佐、子育て支援係長、
子ども発達支援係長、児童係長、児童係職員
- 傍聴者 0名

1. 開会

委員総数17名中14名出席のため会議成立を報告。（傍聴者0名。）

2. 辞令交付

岩村町長より辞令交付

3. 町長挨拶

挨拶後、次の公務のため退席

4. 会長、副会長の選任

会長に西田委員（八雲町校長会）、副会長に小林委員（青少年健全育成推進協議会）の選任を確認。

5. 会長、副会長挨拶

6. 条例及び制度について

新しく委員になられた方も多くいることから、八雲町子ども・子育て会議及び第2期八雲町子ども・子育て支援事業計画について説明。

7. 報告事項

（1）第2期八雲町子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について

【事務局より説明】

①教育・保育の状況について（資料1）

P1 保育所・幼稚園利用者数一覧

・利用定員数について、令和2年と令和3年を比較すると、八雲幼稚園において、

利用定員数を 80 名から 60 名に変更しており、全体で 550 名から 530 名に減少している。

- ・利用者数について、認可保育所の合計は、令和 2 年が 274 名に対し、令和 3 年は 261 名となり、13 名の減少となっている。認可外保育所については、令和 2 年が 71 名に対し、令和 3 年は 66 名となり、5 名の減少となっている。また、幼稚園についても、令和 2 年が 72 名に対し、令和 3 年は 66 名となり、6 名の減少となっている。令和 3 年においては、各施設区分において減少が見られ、児童数の減少が伺える。

P 2 教育・保育の量の見込みや確保の内容と保育所・幼稚園利用者数実績の比較

- ・令和 2 年度の推計と実績を比べると、量の見込み推計の合計は 448 名に対し、実績 417 名となっており、31 名実績が少なくなっている。次に各施設の入所希望人数に対応させる為に設定している確保の状況については、推計及び実績とともに全施設で受け入れできる定員を超えておらず、待機児童の発生はない状態となっている。

②地域子ども・子育て支援事業の状況について（資料 2）

- ・利用者支援事業（P 1）について、令和 2 年度から子育て支援センターで基本型を、令和 3 年度からは、八雲・熊石地域に子ども・子育て世代包括支援センターを設置し、母子保健型を実施している。
- ・地域子育て支援拠点事業（P 1）について、子育て支援センターが事業を実施しており、令和 2 年度は 368 人の推計値に対し、338 人の利用実績があった。
- ・妊婦健康診査事業（P 1）について、令和 2 年度は 1,260 人の推計値に対し、996 人の利用実績があった。この実績は例年と比較しても大きく減少しており、新型コロナウイルス感染症の流行の長期化による影響や、国立八雲病院の移転に伴う看護師等の転出による影響などが要因として考えられる。
- ・乳児家庭全戸訪問事業（P 1）について、令和 2 年度は 90 人の推計値に対し、94 人の利用実績があった。
- ・養育支援訪問事業について（P 2）について、令和 2 年度は 96 人の推計値に対し、65 人の利用実績があった。
- ・子育て短期支援事業（P 2）について、アンケート調査に基づく推計では当事業に対する若干のニーズがある状況であるが、本町には児童福祉施設がなく、子育て短期支援事業を実施する体制を整備することが難しい状況にある。今後も必要とする方に対し、近隣市町村の子育て短期支援事業に関する情報提供を行っていく。
- ・子育て援助活動支援事業（P 2）について、アンケート調査に基づく推計では当事業に対する若干のニーズがある状況であるが、本町では提供希望者がいないため、実施する体制を整備することが難しい状況にある。
- ・一時預かり事業（P 2）について、幼稚園型は、幼稚園や認定こども園で実施しており、令和 2 年度は 4,428 人の推計値に対し、2,568 人の利用実績があった。

一般型は、子育て支援センターで実施しており、令和2年度は485人の推計値に対し、673人の利用実績があった。推計値を超える実績でありましたが、受け入れは出来ている。

- ・延長保育事業（P3）について、令和2年度は17人の推計値に対し、19人の利用実績があった。
- ・病児保育事業（P3）について、量の見込みの推計では病児保育事業の利用ニーズが出ているが、本町の保育施設及び医療施設は、病児保育事業を行うための設備が整っておらず、必要となる医療体制及び人材の確保も困難な状況にある。
- ・放課後児童健全育成事業（P3）について、令和2年度は127人の推計値に対し、八雲地域で140人の利用実績があった。推計値を超える実績であったが、受け入れは出来ている。また、熊石地域と落部地域は、支援員の確保や児童数の減少により放課後児童健全育成事業としての実施は厳しい状況にあるが、熊石地域では、放課後子ども対策事業として「ふれあい交流センターくまいし館」に見守りスタッフを配置して、その中で体験プログラムなどの各種教室を実施している。落部地域では「落部レクリエーションセンター」の一般開放を行っている。
- ・実費徴収に係る補足給付を行う事業（P3）について、令和2年度の利用実績はなかったが、今後も実施していく。
- ・多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業（P3）について、令和2年度の実績はなかったが、今後、小規模保育や家庭的保育、居宅訪問型保育などの事業参入の相談があれば対応して行く。

③子ども・子育て支援関連施策の状況について

【事務局より説明】

- ・子育て支援センターの事業概要及び令和2年度実績を報告（資料3）
- ・子ども発達支援センターの事業概要及び令和2年度実績を報告（資料4）

【委員からの質疑】

7. 報告事項の①～③について、特になし。

8. その他
特になし。

9. 閉会